

## ツヤハダゴマダラカミキリ *Anoplophora glabripennis*

### 分布

中国、韓国、北朝鮮原産で、アメリカ合衆国、フィンランド、フランス、イタリア等に侵入している。

### 寄主植物 (別紙1の①参照)

### 形態

(成虫)体長 雄 20~29mm  
雌 22~35mm

体色は全体に光沢のある黒色で鞘翅に約20個の白斑~黄斑を有する。触角は12節、3~12節には明瞭な白色の帯があり、雄では体長の2.5倍、雌では1.3倍と長い(図1)。

※在来種のゴマダラカミキリとの識別は別紙1の②参照



雄成虫

雌成虫

図1 本種成虫

### 生態

- ・ 成虫は5月下旬~10月に出現。雌は寄主植物にすり鉢状のかみ傷をつけ、その窪みに一個ずつ産卵する。かみ傷は一般的に直径 5cm 以上の幹や枝に見られる。
- ・ 卵は2~3週間で孵化し、幼虫は、孵化後しばらく黒褐色の細かい糸クズ状の糞を産卵痕から排出し、2~3齢まで樹皮下を食害した後材内に潜入する。この頃から排出される糞は白く粗い木屑状に変わる。幼虫は最大で50mm以上となり、5令を経て材内で蛹化し、2~3週間後10~15mmの孔を開け脱出する。
- ・ 1年に1世代で、卵、幼虫、蛹態で越冬する。
- ・ 雌は複数の雄と交尾し、一生産卵を続ける(1雌あたり産卵数は約45~62個)。
- ・ 雄の寿命は3~50日。雌は14~66日。
- ・ 飛翔能力は、1回の飛翔は30~255mと短い、中国では1シーズンに雄成虫が1029m、成熟雌成虫が1442m移動したという報告もある。

### 海外での被害情報

- ・ ニューヨーク州、マサチューセッツ州、ニュージャージー州、イリノイ州、オハイオ州、サウスカロライナ州、オンタリオ(カナダ)及びヨーロッパの一部で大発生し、公園や街路樹のポプラを枯死させ、年間数百万ドルの大被害を与えている。
- ・ 中国では全土のポプラ植林面積670万haのうち270万ha(40%)が被害を受けた。

### 防除方法

伐倒駆除又は、樹木類・カミキリムシ類に登録のある農薬による薬剤処理。  
(別紙2参照)

# 寄主植物と在来種との識別

## ① 寄主植物

アオイ科: ムクゲ (*Hibiscus syriacus*)

カエデ科: カエデ属 (*Acer*)、*A. ginnala*、トネリコバノカエデ (*A. negundo*)、*A. nigrum*、  
イロハモミジ (*A. palmatum*)、ヨーロッパカエデ (*A. platanoides*)、  
セイヨウカジカエデ (*A. pseudoplatanus*)、ベニカエデ (*A. rubrum*)、  
ギンヨウカエデ (*A. saccharinum*)、サトウカエデ (*A. saccharum*)、*A. tegmentosum*、  
*A. truncatum*

カバノキ科: ハンノキ属 (*Alnus*)、カバノキ属 (*Betula*)、*B. populifolia*

クワ科: クワ属 (*Morus*)、トウゲワ (*M. alba*)

グミ科: ヤナギバグミ (*Elaeagnus angustifolia*)

スズカケノキ科: スズカケノキ属 (*Platanus*)、モミジバスズカケノキ (*P. × acerifolia*)

センダン科: センダン (*Melia azedarach*)

トチノキ科: *Aesculus glabra*、セイヨウトチノキ (*A. hippocastanum*)

ニレ科: ニレ属 (*Ulmus*)、アキニレ (*U. parvifolia*)、ノニレ (*U. pumila*)

バラ科: リンゴ属 (*Malus*)、*M. sylvestris*、サクラ属 (*Prunus*)、ナシ属 (*Pyrus*)、  
バラ属 (*Rosa*)、*Sorbus americana*、ヨーロッパナナカマド (*S. aucuparia*)

マメ科: ネムノキ (*Albizia julibrissin*)、ハリエンジュ (*Robinia pseudoacacia*)、  
クララ属 (*Sophora*)

モクセイ科: トネリコ属 (*Fraxinus*)、セイヨウトネリコ (*F. excelsior*)、  
ビロウドネリコ (*F. pennsylvanica*)

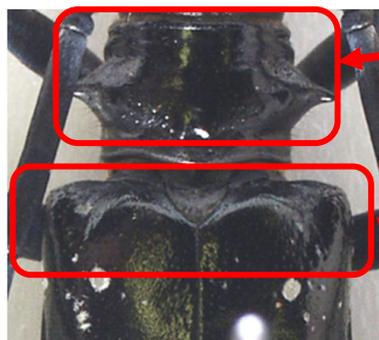
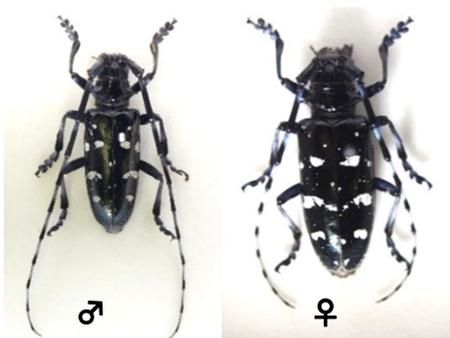
モクレン科: ユリノキ (*Liriodendron tulipifera*)

ヤナギ科: ハコヤナギ属 (*Populus*)、ウラジロハコヤナギ (*P. alba*)、*P. canadensis*、  
*P. dakuanensis*、ナミキドロ (*P. deltoids*)、クロポプラ (*P. nigra*)、ヤナギ属 (*Salix*)、  
シダレヤナギ (*S. babylonica*)、ウンリュウヤナギ (*S. matsudana*)

カツラ科: カツラ属 (*Cercidiphyllum*)

## ② ゴマダラカミキリとの識別

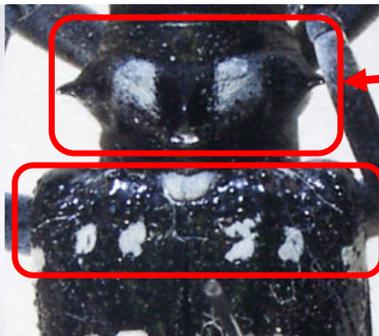
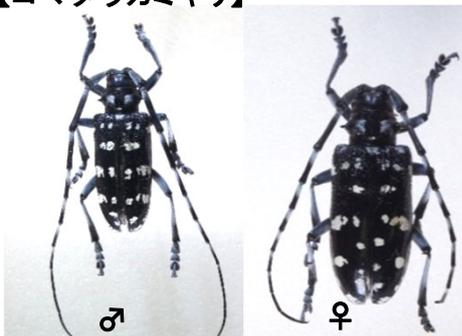
### 【ツヤハダゴマダラカミキリ】



『前胸背』  
・ 白紋を持たない

『上翅基部』  
・ 顆粒状突起を持たない  
・ 白紋を持たない  
・ 小楯板は白色軟毛に覆われない

### 【ゴマダラカミキリ】



『前胸背』  
・ 中央に2つの白紋を持つ

『上翅基部』  
・ 顆粒状突起を持つ  
・ 白紋を持つ  
・ 小楯板は白色軟毛に覆われる

## ツヤハダゴマダラカミキリの発生調査と防除方法

### 発生調査方法

#### ○発生木の調査（時期：周年）

- ・対象樹：ニレ属（アキニレ、ハルニレ）、カツラ、トチノキ属、ヤナギ類  
（海外ではポプラやカエデ類への被害が報告）
- ・木幹を観察し、成虫の脱出孔（写真1：直径10～15mm）又は産卵痕（写真2：直径10～20mm）、幼虫が排出するフラス（写真3～4：幼虫が食べた木くずと糞が混ざったもの）の有無を確認（ゴマダラカミキリ等、在来のカミキリムシの可能性があるので生体を確認することが望ましい）

#### ○成虫の調査（時期：5～10月ごろ）

- ・被害発生木を中心に目視で観察



写真1 成虫の脱出孔



写真2 産卵痕



写真3 フラス (1)



写真4 フラス (2)

## 防除方法

### ○伐倒駆除

- ・成虫が羽化・脱出する前の4月中に完了させる
- ・伐採した木はチップ化、焼却処分する

### ○薬剤防除（樹木類、カミキリムシ類に登録のある農薬：2021年12月28日現在）

農薬の使用に当たっては、必ず登録内容を確認してください。

※農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>

#### 【成虫】

- ・フェニトロチオン（MEP剤）（スミパイン等）：成虫発生初期又は直前に樹幹散布

#### 【幼虫】

- ・フェンプロパトリンエアロゾル（ロビンフード・ベニカカミキリムシエアゾール等）：食入孔にノズルを差し込み噴射